

朝日庄内の風

令和 8 年 8 月 24 日 第 38 号
朝日庄内森林生態系保全センター

CONTENTS

あさひ小学校 大鳥自然教室 ……	2
現場業務最盛期！ ……………	5
オオハンゴンソウ駆除作業 ……	6
コラム：森林性のカエルたち …	8



アカネ属のトンボを食する独眼蛙カジカガエル
2024.8.10 鶴岡市 大鳥池 (撮影:有本 実)

所長の独り言

朝日庄内森林生態系保全センター所長 森川 秀和

東北地方は平年より遅い8月4日に梅雨明けとなりました。

ここ庄内地方では、田んぼの稲が出穂期を迎えるとともに、特産のメロンやただちや豆が収穫の最盛期を迎えています。夏の訪れとともに、地域の豊かな実りを感じる季節となりました。

さて、着任から早いもので4か月が過ぎました。この間、各種会議や行事への出席が続き、慌ただしい日々を過ごしてまいりました。初めての土地であり、また初めて携わる業務でもあったことから、不安を感じることもありましたが、多くの方々と出会い、さまざまなお話を伺う機会に恵まれ

ました。こうした出会いや経験は、私にとって大変実りの多いものとなっています。

これまでは、本業である朝日山地に足を運ぶ機会が限られていましたが、夏山シーズンを迎え、これからはできるだけ現地に赴き、朝日山地の魅力や豊かな自然に触れながら理解を深めていきたいと思っています。



7月15日、朝日山地森林生態系保護地域部会でご挨拶

あさひ小学校 大鳥自然教室

自然教室に向けて事前学習を実施

鶴岡市立あさひ小学校では、5年生を対象に毎年1泊2日で『大鳥自然教室』を行っています。今年は6月18～19日に実施されるということで、その事前学習として6月9日に、当日歩く六十里越街道や翌日の森林整備について学ぶ学習会を行いました。学習会では、「山形県の面積に占める森林の割合は何%でしょう？」といったクイズを交えながら、森林の働きや整備



木の切り方を真剣に聞く子供達



森林クイズ！
山形県の森林率は何%？正解は…

%04:25

について理解を深めました。少し難しい内容もありましたが、児童たちはメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。その姿にとっても感心しました。というのも、今回講師を務めた私は、あさひ小学校の卒業生だからです。私が在学していた頃の自然教室では大鳥池まで登るコースでしたが、只々その日を心待ちにしていたことを思い出します。今回お会いした現5年生は、「木が倒れていて通れないときはどうしますか？」「熊に遭遇した場合はどうしたらよいですか？」などの質

問もしてくれました。自然教室をより安全に、そして充実したものになろうと、一生懸命学ぶ姿がとても頼もしく感じられました。(齋藤)

六十里越街道トレッキング

本番初日の6月18日、まずは六十里越街道のトレッキングです。あさひ小学校の先生方と当センター職員のほか、出羽三山の自然を守る会から3名、山形県山岳連盟から2名の方々にスタッフとしてご協力いただきました。

庄内地方から湯殿山南麓を越えて内陸に至るこの古道は、今から約1200年前に開かれたと伝えられています。出羽三山へ続く参詣道として賑わっていた



いにしえの旅人と同じように
十王峠から霊峰・月山を望む児童たち



笹の葉で柄杓を作って
“イタヤ清水”を飲んでみます

当時の史跡も多く、地元の小学生の社会学習には最適です。

今回歩いた区間は【田の神分岐～十王峠～注連寺～皇檀ノ杉(おうだんのすぎ)】。昨年の自然教室で歩いた【蟻腰坂～細越峠～湯殿山神社大鳥居】よりも人里に近いエリアでしたが、十王峠から注連寺

までの区間には思いのほか見事なブナ林が広がっていて、ブナの幹に付けられたツキノワグマの爪痕を見つけた児童から歓声が上がりました。快晴すぎて暑い1日でしたが、冷たい清水で喉を潤わせて桑の実で糖分補給して、ゴール地点の巨木・皇檀ノ杉と対面した児童たちは、皆が皆充足した表情に変わっていました。大人と違って元気一杯、今夜の野外炊飯やキャンプファイヤーは余裕そうです。



今年はブナの実が
豊作!



街道沿いの桑の木には食べごろの実が…
しっかり味わうのも貴重な体験学習です



皇檀ノ杉の巨大さを皆で体感してみました

森林保全活動

翌 19 日の活動は、朝日山地森林生態系保護地域内に植えられたスギ林内の整備作業です。庄内森林管理署の職員もスタッフに加わり、生育不良のスギを切り倒して上空を開けて、林床に陽射しが降り注ぐようにして広葉樹の生長を促します。「昨日桑の実を食べたろう？他にもブナやクルミのような実のなる木がもっと増えれば、クマやリスたちが住みやすくなるはずだ」などと児童たちにこの活動の意義を説明しながら、ヒョロヒョロの細いスギを鋸で切っていきます。事前学習で所長が伝授した木の切り方を思い出してもらいながら、疲れたら皆で交代しながら、計5本のスギを切り倒しました。倒したスギを、時間が許す限り各々好きな個数、好きな厚さに輪切りにしてコースターを作ってもらいましたが、誰もが自発的に切口を嗅いで「いい香りがする！」と言い合う姿が印象的でした。

感受性豊かな小学5年生にとって、1泊2日の自然教室は、もしかしたらその後の人生に大きな影響を及ぼすほどの大切な体験だったかもしれません。『六十里越街道について教えて』『木の切り方を教えて』などとAIに聞いただけでは決して身に付かない数多くの学びを、彼らは五感を全て活用して体得できたことでしょう。(有本)



現場業務最盛期！

6月に入るとさすがに山奥の林道も雪が解けて、朝日山地の主要な登山口まで車で行けるようになります。今年もまたエゾハルゼミの蝉時雨を浴びながら、黙々と現場業務をこなす季節が到来しました。

まずは夏山シーズンの開幕に合わせて、朝日山地森林生態系保護地域の組立式看板を3箇所の登山口に設置してきました。左下の写真は、大鳥池の登山口ですが、ここには大鳥池までの距離の目安を1/10ごとに示した“大鳥池まで 0/10”という小さな看板や、入山者数を計



ブナ林の住人
エゾハルゼミ

測するカウンターも設置されています。朝日山地に携わる各関係機関が、夏山開きとともに設置して、積雪前の晩秋に撤収するのです。シーズン中は、登山道の刈払いや倒木処理、避難小屋駐在など、多くの方々の活動によって快適な登山環境が支えられています。登山道を歩かれる際には、こうした様々な人達のご尽力に想いを馳せていただくと幸いです。



倒れないように石でしっかり固定します
この奥に環境省の入山者カウンターがあります



現地で見かけましたら、どうぞご覧ください

そして現場業務のメインとなりつつあるのが、昨年度から開始したセンサーカメラによる中・大型哺乳類調査です。6～11月の期間中に、朝日山地周辺の10箇所で1台ずつセンサーカメラを稼働させて哺乳類をモニタリングし、過年度の撮影結果と比較していきます。実はこのうちの1台を、前ページで紹介した森林保全活動のスギ林内に設置しています。この保全活動によって広葉樹が生長していくと、撮影される哺乳類も増えるのでは…という期待を込めて調査地に選定していたのです。



昨年の調査で撮影された保全活動時の一コマ
次のページの画像も昨年、同地点で撮影

ここでは昨年、6種類の哺乳類が合計25回撮影されました。詳細は報告書にまとめて当センターウェブサイトに掲載していますので、ご興味のある方は右下のQRコードからご覧ください（森林保全活動の調査地は『No.4 左京淵ダム』）。これから哺乳類相がどのように変化していくのか、楽しみです。（有本）



稼働中の
センサーカメラ



調査報告書

人が歩きやすい小径は動物たちも歩くので、カメラ設置場所の狙い目です(前ページと同じ画角)



ここでは昨年、ニホンカモシカが3回、ツキノワグマが2回撮影されました

オオハンゴンソウ駆除作業

下の写真は今年の8月6日、センサーカメラのデータ回収作業の合間に西川町大井沢で撮影したもので、休耕地一面が満開のオオハンゴンソウで黄色く染め上げられていました。真っ青な夏空とのコントラストが素敵！などと感動してはいけません。環境省が『特定外来生物』に指定している北米原産のこの植物は繁殖力が凄まじく、ひとたび侵入すると日本在来の植物を駆逐しながらあっという間にこのような大群落を形成し、生態系に悪影響を及ぼします。綺麗だからと自宅の庭に移植したり、種を採取して蒔いたりするのはもちろん厳禁です。



大井沢に限らず、全国各地にこのような光景が広がり、駆除活動が盛んに行われています
“満開のオオハンゴンソウ”が、新たな日本の夏の風物詩にならないことを願うばかりです

そんなオオハンゴンソウが朝日山地森林生態系保護地域内で見つかったのは、平成 29 年のこと。朝日町の朝日鉱泉周辺で、登山道脇と林道脇の2箇所のみ限定された狭い範囲なので、いずれ根絶できるだろうと毎年駆除作業を行っています…今年は7月9日に実施しましたが、毎年この誌面上で駆除の様子を掲載しているとおり、一向に無くなりません。現地を遠目に眺めると根絶できたかと錯覚しますが、クズやオオイタドリなどの藪の中に突入してみると、大小様々、結構な株数が亡霊のように生き残っているのです。目を凝らして探せば探すだけ見つかります。

種子が落ちて発芽すればますます増殖するので、根絶を目指すのであれば花が咲く前に根こそぎ掘り取る必要があります。ただ、時期が早すぎると植物体が小さくて見落としやすいので、やはり暑い初夏に作業せざるを得ず、かなりの重労働です。来年以降も、ここを管轄する山形森林管理署と協力しながら、駆除作業を継続していきます。(有本)



コラム 森林性のカエルたち (文・撮影:有本 実)

今号表紙のカジカガエルは、朝日山地の清流で涼やかな鳴き声を響かせるカエルですが、その他に朝日山地で登山中に見かける森林性のカエルを4種、産卵場所とともにご紹介します。

新緑の森で、モリアオガエルが池の畔の樹上に泡状の卵塊を産み付ける光景は、山好きにはお馴染みでしょう。アズマヒキガエルとヤマアカガエルは止水域の池や水溜まりに産卵しますが、同じ場所で繁殖することもあります。タゴガエルは地中の伏流水などで産卵するため、春先に地面からグググッ…という謎の音が聞こえてきたら、それは産卵のため地中に潜り込んだ本種です。

これらのカエルたちは、産卵期にはこうした水辺に集まりますが、その後は周囲の森の中で昆虫類などを食べて生活します。卵から孵化したオタマジャクシもやがて上陸し、周囲の森で独り立ちします。つまり彼らには、水中と陸上両方の生息環境が必要で(だから“両生類”)、その間に移動の障壁が無い、という点が重要です。水辺の周りを垂直の護岸で固めたり、コンクリートのU字溝を設置したりすると、せっかく手足が生えた子ガエルが上陸できなくなるのです。裏を返せば、これらのカエルたちが生息していれば、そこは水辺と森の連続性が確保された良好な生態系が維持されている、という証なのです。登山中にカエルを見つけると、ニヤリとせずにはられません。

モリアオガエル (体長 5~8cm 程)



—産卵直前の蛙合戦!—

2023.6.10 秋田県 北秋田市

アズマヒキガエル (体長 6~18cm 程)

—繁殖期以外はほとんど陸上で生活します—



2016.7.18 青森県 西目屋村

ヤマアカガエル (体長 4~8cm 程)

—水平距離で1m近く大ジャンプします—



2021.7.17 秋田県 仙北市

タゴガエル (体長 4~5cm 程)

—喉の薄墨色がヤマアカガエルとの識別点—



2018.10.21 青森県 鰯ヶ沢町



発行: 林野庁 東北森林管理局 朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0015 山形県鶴岡市末広町 23-37 TEL: 0235-26-1841

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

